外国語科学習指導案

日　時　令和８年１月 13 日（火）
第５校時　13:15～14:00
学校名
対　象　第５学年　組　名
会　場　５年　組　教室
授業者

１　単元名

Lesson 9　“My Hero, My Dream Friend”　*ONE WORLD Smiles 5*　*(教育出版)*

２　単元の目標

クラスの仲間に自分のあこがれの人をよく知ってもらうために、その人のできることや特徴について、自分の考えや気持ちを話すことができる。

３　単元の評価規準

	ア　知識・技能	イ　思考・判断・表現	ウ　主体的に学習に取り組む態度
話すこと［発表］	①　This is ～. He can (sing well). He is good at (dancing). He is (cool). Who is ～?など、第三者のできることや特徴を表す表現について理解している。 ②　This is ～. He can (sing well). He is good at (dancing). He is (cool). Who is ～?など、第三者のできることや特徴を表す表現を用いて、自分の考えや気持ちを話す技能を身に付けている。	クラスの仲間に自分のあこがれの人をよく知ってもらうために、その人のできることや特徴について、自分の考えや気持ちを話している。	クラスの仲間に自分のあこがれの人をよく知ってもらうために、その人のできることや特徴について、自分の考えや気持ちを話そうとしている。

４　指導観

⑴　単元（題材）観

本単元は、小学校学習指導要領（平成 29 年３月告示）第２章　第 10 節　外国語　第２　各言語の目標及び内容等　英語　１　目標　⑷　話すこと［発表］

ウ　身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。

２　内容　〔知識及び技能〕　⑴　英語の特徴やきまりに関する事項　エ　文及び文構造

(ｱ)　文

b　肯定、否定の平叙文
e　代名詞のうち、I、you、he、she などの基本的なものを含むもの
f　動名詞や過去形のうち、活用頻度の高い基本的なものを含むもの
(ｲ)　文構造
b　［主語＋動詞＋補語］のうち、
主語＋be 動詞＋｛名詞／代名詞／形容詞｝

2　内容　〔思考力、判断力、表現力等〕　⑵　情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項

ア　身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の考えや気持ちなどを伝え合うこと。

2　内容　〔思考力、判断力、表現力等〕　⑶　言語活動及び言語の働きに関する事項　①　言語活動に関する事項

エ　話すこと［発表］
(ｳ)　簡単な語句や基本的な表現を用いて、学校生活や地域に関することなど、身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを話す活動。

を受けて設定した。

⑵　児童・生徒観

本学級の児童は、第３学年と第４学年で年間 35 時間の外国語活動の授業を文部科学省作成小学校外国語活動教材 *Let's Try! 1, 2* を使用して学習をしている。今年度は *ONE WORLD Smiles 5* で学習をしている。

授業中に実施した「外国語科の学習に関するアンケート」（令和７年 11 月実施）では、「外国語の学習をするのは好きですか？」に対して、約 93%の児童が肯定的な回答をしている。新しい言葉に触れる楽しさや、歌による英語らしい音のおもしろさなどを感じている児童が多かった。「外国語の授業がよく分かる」に対しては、約 92%の児童が肯定的な回答をしている。児童に楽しいと感じる活動は何かを聞いたところ、音と意味を一致させやすい活動、言語外情報や視覚的補助があれば意味がすぐにわかる活動を楽しいと感じていた。英語を使って人と関わることで知らなかったことを知れるおもしろさを感じている児童は一定数いたが、まだ感じられていない児童もいた。そのことを考慮し、指導者とのやり取り、児童同士のやり取りを通して、英語を使って情報を伝え合う面白さやコミュニケーションの楽しさを感じられるようにする。

⑶　教材観

これらの児童の実態を踏まえ、「話すこと［発表］」を最終目標とした授業づくりを行う。

Lesson 5 “I can run fast.”では、 “I can (play the piano).”の表現を用いて、自分のできることや、できないことについて伝える活動に取り組んだ。Lesson 5 では、主に主語が I / You のときのできること、できないことについて音声で十分に慣れ親しんでいる。代名詞 He、She については聞くことはしているが、話すことについて知識技能の定着は未熟な状態である。そのため、本単元では、第三者について話ができる代名詞 He、She について音声で十分慣れ親しみ、知識及び技能

の確かな定着が図れるようにする。代名詞 He、She の意味を捉え、使い方に気が付けるように指導していく。

また、この単元は、He is ～. She is ～.という三人称の be 動詞を使った表現および cool / cute / brave / funny / great / kind / smart / strong などの形容詞に初めて出会う単元である。“He is cool.”などの人の特徴を表す形容詞を含む文章を聞いたり、伝え合ったりする時間を十分に確保し、定着を図る。自分のあこがれの人や好きな人である「推し」を紹介し合う「推し紹介タイム」を単元末に設定し、“He is ～. He can (sing well). He is (cool). He is good at (dancing).”の表現を使ってその人の素敵なところを伝え合うことで、友達があこがれている人のできることやその特徴などについて知り、改めてお互いのことを更に知るきっかけとなるようにする。

○言語材料

表現　This is (name). / He can (sing well). / He is (cool).
　　He is good at (dancing).

語句　he / she / sing / dance / swim / play / run / jump
　　cool / cute / brave / funny / great / kind / smart / strong

本単元の発表の例は次の通りである。

(b)評価の例	(a)評価の例
This is (name). He can sing well. He is good at dancing. He is cool.	自分のあこがれの人について、自分の考えや気持ちを付け足している。 This is (name). He can sing well. I can't sing well. He is great. He is good at dancing. He is cool. He is funny. I like (name).

５　年間指導計画における位置付け

月	単元名	学習内容	主となる言語材料	領域
第1学期	Nice to meet you.	名前や好きな物を伝える。	○　I'm (Ayaka). ○　My name is (Sonoda Akie). ○　I like (dogs).　I don't like (cats). ○　色 / スポーツ / 動物 / 食べ物	話すこと［発表］
	When is your birthday?	誕生日やほしいものを伝える。	○　When is your birthday? ○　My birthday is (January 8th). ○　I want (shoes). ○　月 / 数(1 ～ 31) / 序数（日付）	話すこと［発表］ 聞くこと
	I have P.E. on Monday.	夢の時間割を伝え合う。	○　What do you have on (Tuesday)? ○　I have (math, English, and music) on (Tuesday). ○　教科 / 曜日	話すこと［やり取り］ 聞くこと
	This is my	自分の日課や	○　What time is it in (Boston)?	話すこと

第2学期	dream day.	習慣について伝え合う。	○ It's (seven o'clock). ○ What time do you (get up)? ○ I (get up) at (six).	［やり取り］ 読むこと
	I can run fast.	自分のできることを伝える。	○ I can (play the recorder). ○ I can't (run fast). ○ He [She] can (swim well). ○ できること / 副詞	話すこと ［発表］
	Where do you want to go?	行ってみたい場所や、やってみたいことを伝え合う。	○ Where do you want to go? ○ I want to go to (Okinawa). ○ I want to see (the beautiful sea). ○ 形容詞 / 四季	話すこと ［やり取り］ 書くこと
	I'd like pizza.	レストランで注文したり、注文を受けたりする。	○ What would you like? ○ I'd like (pizza and salad). ○ How much is it? ○ It's (900 yen).	話すこと ［やり取り］ 聞くこと
第3学期	My Hero, My Dream Friend	あこがれの人のできることや得意なことについて伝える。	○ He[She] can (swim very fast). ○ He[She] is (cool). ○ I'm good at (cooking). ○ Who is ～?	話すこと ［発表］ 書くこと
	Where is the station?	目的地への行き方を伝える。	○ Where is (the station)? ○ Go straight. ○ Turn right [left] at the (first) corner. ○ 町や学校内の施設 / 前置詞	話すこと ［やり取り］ 聞くこと

６　単元（題材）の指導計画と評価計画（全７時間）

時	目標	学習内容・学習活動	評価規準 (評価方法)
1 （本時）	He/She is (cool).の表現や人の特徴を表す形容詞を聞いて意味が分かる。	・ Song ・ 先生の好きな人紹介タイム ・ 口慣らしタイム ・ うわさ話タイム ・ 褒め褒めタイム	ア－① (行動観察)
2	He can (sing well).の表現を聞き取ったり、自分の考えについて話したりする。	・ Song ・ キャラクタークイズ He can fly. He is kind.などを聞いてどのキャラクターか考える。 指導者や友達にクイズを出す。	ア－① (行動観察) ア－② (行動観察)
3	He is good at (dancing).の表現を聞き取ったり、自分の考えについて話したりする。	・ Song ・ 先生たちの得意なこと ・ キャラクターの得意なこと	ア－① (行動観察) ア－②

		キャラクターの得意なことについて指導者や友達と聞いたり話したりする。	（行動観察）
4	He is ～. He can (sing well). He is (cool). He is good at (dancing). など、その人のできることや特徴についてのまとまった表現に慣れ親しむ。	・ Song ・ 先生たちの推し紹介タイム He is ～. He can (sing well). He is (cool). He is good at (dancing).のまとまった表現に慣れ親しむ。 ・ 推し紹介ワークシート①（読むこと） ・ 自分の推し紹介で何を言うか考える。 ・ ひとりごとタイム	アー① （行動観察） アー② （行動観察）
5	クラスの仲間に自分のあこがれの人をよく知ってもらうために、He is ～. He can (sing well). He is (cool). He is good at (dancing).など、その人のできることや特徴についてのまとまった表現に慣れ親しんだり、自分の考えを伝えたりする。	・ Song ・ Small Talk ・ 先生たちの推し紹介タイム ・ ひとりごとタイム ・ 推し紹介タイム 友達と自分の「推し」について紹介し合う。 ・ 推し紹介ワークシート②（読むこと）	アー① （行動観察） アー② （行動観察） ウ （行動観察）
6	クラスの仲間に自分のあこがれの人をよく知ってもらうために、He is ～. He can (sing well). He is (cool). He is good at (dancing).などの表現を用いて、その人のできることや特徴について、内容を整理して伝えることができる。	・ Song ・ Small Talk ・ 推しの PR 動画撮影 ・ 推し紹介ワークシート（書くこと）	イ （行動観察、動画） ウ （行動観察・振り返り）
7	クラスの仲間に自分のあこがれの人をよく知ってもらうために、He is ～. He can (sing well). He is (cool). He is good at (dancing).などの表現を用いて、その人のできることや特徴について、伝えることができる。	・ Song ・ Small Talk ・ Sounds and Letters ・ テスト	イ （行動観察、テスト） ウ （行動観察・振り返り）

7　指導に当たって

⑴　主体的な学びに向けて

児童が自分の本当の気持ちや考えを伝え合いたいという気持ちで活動に取り組めるよう、単元の後半に「推し紹介タイム」を設定する。好きなスポーツ選手や歌手、キャラクターなど自分の憧れの人・好きな人のよさを語ることは日本語でも楽しいことである。児童にとって身近な、自分の憧れの人を話題にすることで児童がより主体的に伝えたいと思えるようにし、すすんで英語を使って自分の思いを表現できるようにしていく。

⑵　対話的な学びに向けて

言語材料と出会う際には教師対児童でのやり取りを大切にする。教師対児童のやり取りで意味を類推し、意味をつかんだ表現について音声で十分慣れ親しんだ状態になったところで、児童対児童のやり取りを取り入れていく。対話的なやり取りと、実態に合わせた中間指導を通して、知識及び技能の確かな定着を図り、児童が自信をもって英語で自分の考えを伝えられるようにしていく。対話的な学びを通して、児童が「ことばを使う」経験を積み、その経験を通して英語力を身に付けたり、英語で気持ちを伝えることについて自信を身に付けたりできるようにしていく。

⑶　深い学びに向けて

単元の最後に「推し紹介タイム」を取り入れて、児童が自分のあこがれの人「自分の推し」について紹介する。第三者のいいところについて、他の児童とやり取りする中で、今まで知らなかった友達の考えに出会い、共通点を見つけたり、相違点を認め合ったりできるようにする。また「推し」のよさについて英語を使ってどのように表現するかを知ることで、児童が学びを深められるようにしていく。

⑷　班テーマ「聞けた！話せた！伝え合えた！（読めた！書けた！）と児童が実感できる授業の工夫」

児童が「聞けた！」と実感できることを目指して、指導者から語りかける際には、絵や写真などの視覚教材を用いて児童が意味を理解しやすくする。また語りかける際に、先生の話や、キャラクターの話など児童にとって身近な話題で語りかけることで、児童が興味を持って聞き、意味理解ができた時の喜びを感じられるようにする。

児童が「話せた！」と実感できることを目指して、スモールステップの指導を大切にする。受信から発信へと指導していく際には、口慣らしタイムやひとりごとタイムを通して、児童が英語の音の流れに慣れたり、一人で話してみたりする場面を設ける。その際には、机間指導や個別指名を通して児童の習熟度を必ず確認するようにし、できている場合にはその内容を受け止めて、児童が伝えられた実感をもてるようにする。習熟度を確認した結果、指導がさらに必要な場合は実態に合わせて指導を行う。児童が一人でも自信を持って発話できるようになったら、「伝え合えた！」と感じられるよう、全体でのやり取りや児童同士のやり取りの中で児童が発話する場面を多く設定する。

8　本時（全７時間中の第１時）

⑴　本時の目標

He / She is (cool).の表現や人の特徴を表す形容詞を聞いて意味が分かる。

⑵　本時の展開

時間	○学習内容　・学習活動	指導上の留意点・配慮事項	評価規準 (評価方法)
導入 ７分	○　Greetings ・　How are you? ・　日付、曜日、天気を確認する。 ○　Song ・　“This Old Man”	・　歌を通して英語らしい音の流れを身に付けられるようにする。	
展開 10 分	○　先生の好きな人たち紹介タイム ・　指導者の話を聞き、形容詞の意味を推測して、理解する。 T: いろいろな性格の人がいるよね。今日は先生の好きな人たちを紹介するね。 This is my friend, ～. She is great. (写真を見せる)	・　指導者の友人や家族、有名人などを絵や写真とともに紹介し、児童が興味をもって話を聞き続け、形容詞の意味を推測し、理解することにつなげられるようにする。 ・　何度も表現に触れさせ、input の量を確保できるようにする。	
	人の特徴を伝え合おう。		
４分	○　口慣らしタイム（音声練習） ・　「先生の好きな人たち」以外の人たちについて、当てはまることだけ指導者の後に続いて繰り返す。 T: Let’s talk about ～. She is cute. S: She is cute.	・　当てはまることだけ指導者に続いて言うことで、意味を考えながら口慣らしができるようにする。 ・　He と She の違いに気付けるよう声を掛ける。	
３分	○　うわさ話タイム ・　指導者が提示した人に当てはまると思うことを一人で話す。 S: She is kind. She is cute.	・　机間指導を行い、児童の習熟度に合わせて、言語材料の定着に向けた指導をする。	
３分	・　指導者に指名された児童が「うわさ話タイム」で話したことを発表する。	・　個人指名を数名に対して行うことで、形成的評価の場面とする。その結果、言語材料の定着が学級全体として不十分と感じられた場	

		合は実態に合わせて指導を行う。	
11 分	○　褒め褒めタイム ・　形容詞に当てはまる人を伝える。 T: Let's talk about characters. Who is cute? S: ～. T: Yes. ～ is cute. She is cute. S: ～ is cute.	・　「キャラクター編」「先生編」「学級の仲間編」などカテゴリーを決めて、誰がその形容詞に当てはまりそうかを考えられるようにする。 ・　cool や cute などの容姿に関わる形容詞は「学級の仲間編」では取り上げないこととし、児童の人権に配慮する。 ・　挙手した児童を指名することだけでなく、こちらから個人指名する場面も入れる。	ア　He / She is (cool). の表現や人の特徴を表す形容詞を聞いて意味が分かっている。 （行動観察）
4 分	・　ペアに自分の意見を伝える。 T: Who is kind? S1: ～ is kind. S2: Yes! ～ is kind, too.	・　児童同士の活動の際には机間指導を行い、言語材料の定着に向けた指導をする。	
まとめ 3 分	○　学習を振り返る。 ・　振り返りを記入する。 ○　Closing	・　児童の気付きや、学んだことを全体で共有し、価値付ける。	

⑶　板書計画

Tuesday, January 13th

めあて　人の特徴を伝え合おう。

人の 写真・絵	人の 写真・絵	人の 写真・絵	人の 写真・絵	人の 写真・絵	人の 写真・絵	人の 写真・絵	人の 写真・絵
形容詞 絵カード	形容詞 絵カード	形容詞 絵カード	形容詞 絵カード	形容詞 絵カード	形容詞 絵カード	形容詞 絵カード	形容詞 絵カード

⑷　授業観察の視点

ア　児童は、「先生の好きな人紹介タイム」の活動を通して、第三者の特徴を聞き取り、意味を理解して、話すことにつなげられていたか。

イ　児童は、「口慣らしタイム」や「うわさ話タイム」の活動を通して、本時の言語材料について英語らしい音の流れで話すことができるようになっていたか。

ウ　児童は、「褒め褒めタイム」で、自分で話す内容を自分で決めて表現しようとすることができていたか。